

Batファイルの作成

概要

ScoutCheckerBotのモジュール群のexeを逐次実行するBatファイルを作って回路図の検査を行う。
Ver0.2ではGUIがありますが、OSバージョンアップと共に見直す必要が出てくるので、OSバージョン依存しないようにBatファイルにしました。

Batファイルとは

パッチファイルと読む。
中身はテキストファイル。
拡張子を.batするとBatファイルになる。
アイコンをダブルクリックするだけで、中に書かれた順にコマンドを実行してくれる便利なファイル。
Windows限定。

フォーマット

Batファイルのルールに従う。
Batファイルに関する情報は世の中にたくさんあるのでここでは割愛。

モジュール[半角スペース]第1引数[半角スペース]第2引数[半角スペース]第3引数[半角スペース]第4引数[半角スペース]第5引数[半角スペース]]]

半角スペースはタブに置き換えてもOKなようです。

【例】
SC_BZU.exe %BackupPath%backup_00.txt %BackupPath%backup_00.txt InputDataWSAMPLE.csv TOP "0 0 3 4 5"

各モジュールの仕様

モジュール	引数番号					説明
	1	2	3	4	5	
SC_NZUC.exe	ファイル名 (入力バックアップファイル)	ファイル名 (出力バックアップファイル)	ファイル名(Net774)	文字列(Symbol)		NetファイルからBackupファイルのUA/CAを作る。情報を生成。Symbol：回路群内の基板を特定する名前
SC_BZU.exe			ファイル名(Bom774)	文字列(Symbol)	文字列(Format)	BomファイルからBackupファイルのUAにデータを入れ込む。配置番号で判断してMODEL/MAKER/IMP(負載)を該当Unitに付与。Format：ファイル内のフォーマット指定
SC_EJC.exe			ファイル名(Etc774)			EtcファイルからBackupファイルのCAにデータを入れ込む。Conを通知。
SC_EZU.exe			ファイル名(Etc774)			EtcファイルからBackupファイルのUAにデータを入れ込む。該当Unitに情報を追加。
SC_AddInfoRef2Pin.exe						UAのRefタイプUnitの情報をPinタイプUnitにコピーする。(BomFile情報RefタイプUnitにしか追加しないので)
SC_PinCountMax2Unit.exe						UAのRefタイプUnitのPin数をカウントしてRefタイプUnitに値を設定する。(これがないとDB_HITしてないデバイスは何分も分からない。なのでPathSearchの3minのストップが効かない。)
SC_SearchNet2OnePin2Net.exe						Netを全部見て、Netに対して接続が1個だけの場合、そのNetにNCをアサインする。
SC_PathSearchGND.exe						Net探索。GNDアサインのある端子(LOGIC)を基準に探索。探索先にGNDアサイン。
SC_PathSearchVCC.exe						Net探索。電源アサインのある端子(LOGIC-H)を基準に探索。探索先にVCCアサイン。
SC_PathSearchSig.exe						Net探索。未アサイン端子を基準に探索。探索先にSigアサイン。
SC_PinPin2PinDevPin4PathList.exe						PinPin2接続部にDevKeyのUnitを挿入する。
SC_CompressPath.exe						同パスを短め。
SC_HyokObPow.exe						Object単位で電源の判定。
SC_OutTXTNetList.exe			ファイル名(result)			TypeがNetのUnitについてHTMLファイル出力。
SC_OutTXTPinList.exe			ファイル名(result)			TypeがPinのUnitについてHTMLファイル出力。
SC_OutTXTRefList.exe			ファイル名(result)			TypeがRefのUnitについてHTMLファイル出力。

- 現状、環境に合わせて変更が必要な箇所
- 変更を推奨しない箇所

Bomファイルの引数

SC_BZU.exeモジュールの第5引数のFormatとは
Bomファイル内のデータの並び情報です。

並びのルールは以下になります。

1文字目	2文字目	3文字目	4文字目	5文字目	6文字目
スタート行	半角スペース	配置番号の列	半角スペース	VALUE(空番)の列	半角スペース

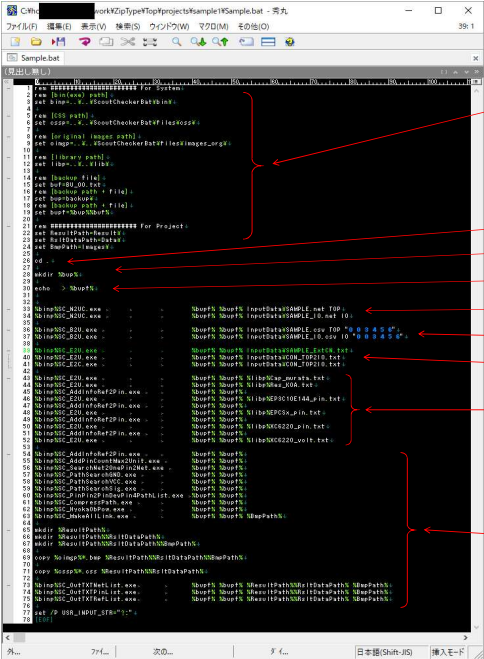
注意事項
同じ列を指定しても不都合はありません。同じ情報が複数箇所にアサインされるだけです。
ダブルクォーテーションで括弧してください。
0スタートです。

バックアップファイル

ScoutCheckerBotで対象にしているプロジェクト情報の全てを格納しています。
基本的に全部同じファイルを指定して上書きで構いません。

全モジュールが入力バックアップファイルの中身を参照するので
開始時のファイルだけは空っぽファイルを指定してスタートした方がいいです。

サンプルプロジェクトのBatファイル解説



変数宣言

カレントディレクトリ設定

バックアップディレクトリ作成

バックアップファイル(開始空っぽファイル)作成

Netリストファイル取り込み

Bomファイル取り込み

外部コネクタ情報取り込み

ユーザー設定ライブラリ(テキストファイル)の取り込み。

AddInfoRef2Pinを関に挟むのは
Refに追加した情報をPinにも展開しないと
Pinに情報を追加出来ないため。

この辺は触らない